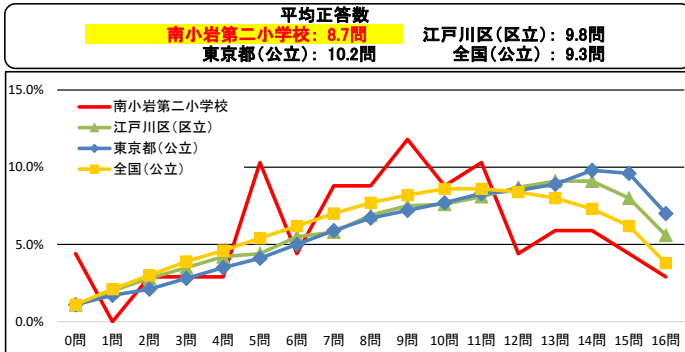


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】南小岩第二小学校

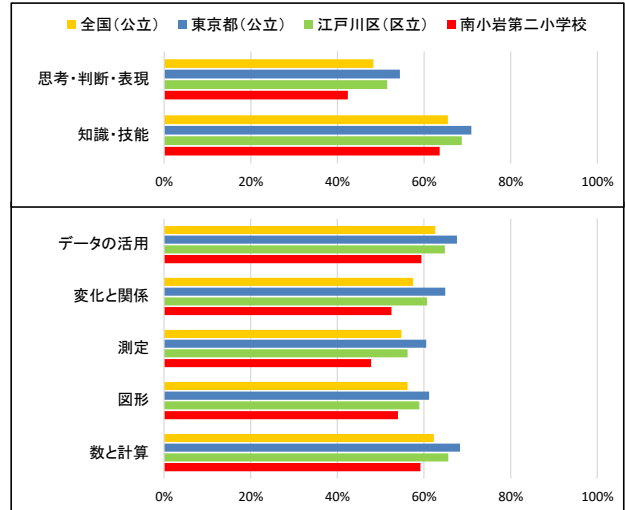
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

南小岩第二小学校	54%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-10.0

「領域別」の結果

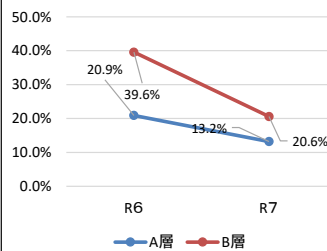


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

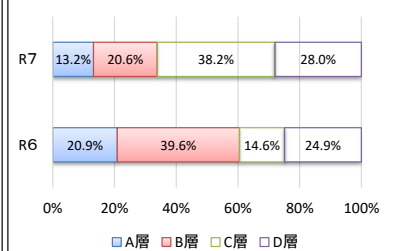
算 数	上 位 ← 下 位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
南小岩第二小学校	13.2%	20.6%	38.2%	28.0%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

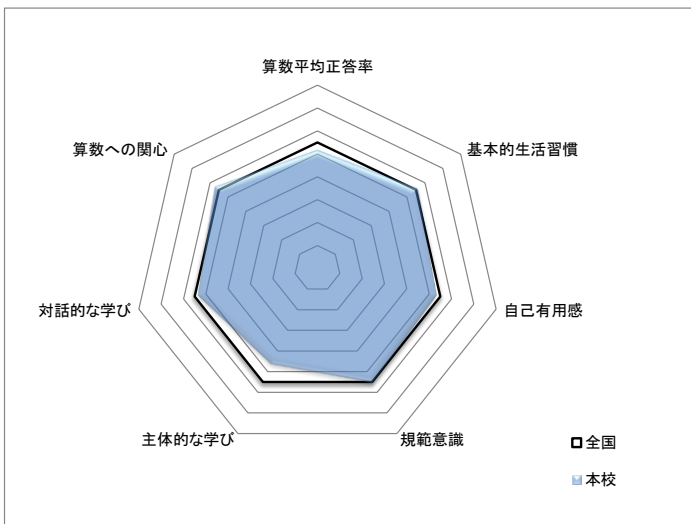
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

主体的に学ぼうとする態度に関する質問に対して、全国平均に対して否定的な回答の割合が高かった。規範意識や対話的な学びに対しての回答は全国平均と同等であるため、お互い学び合うことは苦ではない様子であるが、自ら学ぼうとする姿勢に問題があると考え。

《家庭・地域への働きかけ》

毎週水曜日の朝活動時に「基礎タイム」と称し、算数プリントを中心とした学習時間を設けている。その際、保護者に丸付けや個別学習の補助のボランティアをお願いしている。夏期の保護者面談において、1学期の学習の内容や児童の習熟の様子がわかる学習カルテを配布し、学習の実態がよりご家庭に伝わるような取り組みを行っている。

《現状把握》

●各習熟度層の割合とその課題・取り組みについて
全国、東京都、江戸川区の割合と比べて、AB層の割合が著しく低い。本来であればAB層合わせておよそ50%であるべきだが、本校は33.8%であり、これは30人クラスで15人のAB層が望まれるところの、10人しかAB層がいないという状況である。
本校の重点課題はCD層の学力の底上げである。EDOSK(旧放課後補習教室)においては、最大定員まで参加を募るべく、算数の学習に不安がある児童の保護者へ参加の呼びかけを行っている。毎週金曜日放課後に「すっきりタイム」と称し、終わっていないかったり、身に付いていなかったりした課題を、個別で担任と学習を進める取り組みを行っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

●授業力向上・今年度校内研究授業について
本年度の校内の研究授業課題を「ユニバーサルデザインを活用した授業づくり」と設定している。A層からD層の児童全員が、授業を通して豊かな学びを得られるよう、日々授業改善を行っている。また、全学級全担任が校内研究授業を行い、協議会を通して、より良い授業となるよう研究を進めている。

・基礎学力の保障

●習熟度別授業実施について
毎単元レディネス(学習前定着度)テストを実施し、学年の学級数+1の学習クラス数を確保して、少人数かつ学力の実態に合わせた授業を行っている。
●基礎計算力を高めるために
毎学期1、2回、計算能力向上のための取り組みである「がんばるバ選手権」を行い、四則計算や筆算を復習できる機会を設けている。

・学習習慣の確立

●自主学習の習慣化、手軽に予習復習できる環境について
毎学期「家庭学習強化週間」を2週間実施して、自宅での自主学習に取り組ませている。加えて、普段からタブレット学習を推奨し、学習アプリ「ミライシード・ドリルパーク」を活用して、児童自身で簡単に授業の予習復習ができるよう指導している。

・AB層の育成

●AB層の個人の習熟に合った学習環境の設定について
先述した習熟度別の算数学習クラスのAB層の授業においては、発展的な学習問題を扱い、1授業あたりの解く問題量も増やしている。
習熟度別に学習学級を分ける際、Aクラスの児童数を若干減らし、A層の児童がのびのびと発展的な学習に取り組むことができる環境をつくっている。同時に、B層下位の児童がAクラスで学んでしまうことによって、無理矢理A層の児童の学習レベルに合わせて学習してしまい、学習内容を取りこぼしてしまう危険性も防止している。